

平成 21 年度研究チーム活動中間報告（第 1 回目）

「日本におけるマイノリティ企業家の研究」

No.112 研究幹事：高龍秀（経済学部）

近年、日本のマイノリティとしての在日韓国・朝鮮人、在日中国人の中から、目覚ましい成長を成し遂げた企業家が登場し注目を集めるようになってきている。遊技業のマルハン、MK タクシー、ソフトバンク、日清食品、アイリス・オーヤマなどがそれらの企業であり、マイノリティの企業活動は日本経済の欠かすことのできない一部分を構成している。これらの企業の成長過程を分析すると、創業者の強烈な起業家精神が企業成長の原動力であったが、いくつかの企業では創業者が死亡・高齢化し次世代に継承されている場合も多く、創業者が存命中に肉声を記録に残す意味が重要になっている。本研究は、マイノリティの企業の創業者へのインタビューを行い、そのアーカイブスを作成し、マイノリティの企業家の比較研究を行うことを目的としている。

まず、日本のマイノリティ企業家として、代表的なものをあげ、その資料を収集してきた。最近、この分野では、永野慎一郎編『韓国の経済発展と在日韓国企業人の役割』岩波書店、2010 年、や、韓載香「『在日企業』の産業経済史—その社会的基盤とダイナミズム」名古屋大学出版会、2010 年などが出版されている。研究チームでこれらの文献と資料を読み込んで、マイノリティ企業の成長過程とその特徴を分析してきた。

これらマイノリティ企業の創業者は個性的なアントレプレナー精神をもち、マイノリティとしての様々な逆境を乗り越え、企業を発展させてきたという共通点をもっている。彼らにインタビューを行うことで、これら企業の発展過程、創業者の経営理念とリーダーシップについて分析することを試みた。2009 年度中には、日本のプラスチック用品最大手に成長したアイリス・オーヤマの大山専務取締役と、堂島ロールの創業者であり現在の社長金美花氏にインタビューした。これらのインタビューをDVDに収録・編集しアーカイブスとすることで、今後の研究に広く活用できる基礎資料を作成したい。2010 年度は、MK タクシーの創業者である青木会長はじめ、何人かの経営者へのインタビューを準備しており、基礎資料を収集し分析している。

これらの研究は、日本経営史においてあまり分析されなかったマイノリティ企業に関するアーカイブスという一次資料を提供することで、今後の日本経営史に貢献できるという効果をもっていると思われる。